

「初恋」

言葉にこだわって作品と向き合い、自分の考えを創り上げていく  
子どもの育成

二本松市立小浜中学校 中山 万由

1 単元によせる授業者の思い

本学級の生徒は、日頃から授業に意欲的に取り組んでおり、教師の発問に対しても積極的に発言する。また、課題に対して自分の考えをもち、友達と考えを比較しながら課題解決することもできる。しかし、「読むこと」の学習においては、根拠ではなく自分のイメージのみで内容や作者の思いを解釈してしまう生徒が多い。

よって、本単元では、その言葉を用いた作者の意図を考えたり、類義語と比較したりしながら考えを深め、友達と意見を共有して自分の考えを構築するような授業を展開したい。また、「振り返り」を充実させることで、何ができるようになったか、これからどんな力を付けていくべきなのか等、自分の学習状況を分析する力を育成していきたい。



べることで作品解釈を深める「活用」段階の二段階の単元をデザインした。

改変後の「初恋」は、第三連が削られ、最後の一文「問ひたまふこそこひしけれ」が「うれしけれ」に書き改められている。生徒は、第三連を削った理由や「こひしけれ」を「うれしけれ」に書き改めた理由を考え、その理由を根拠として、自分がよいと思う詩を選択した。

改変後の「初恋」（「早春」より）

問ひたまふこそうれしけれ	誰が踏みそめしかたみぞと	おのづからなる細道は <small>ほろも</small>	林檎畑の樹の下に <small>こ</small>	薄紅の秋の實に <small>うつく</small>	人こひ初めしはじめなり	やさしく白き手をのべて 林檎をわれにあたへしは	花ある君と思ひけり	前にさしたる花櫛の <small>はな</small>	林檎のもとに見えしとき	まだあげ初めし前髪の <small>まへ</small>	初 戀
--------------	--------------	----------------------------------	------------------------------	-------------------------------	-------------	----------------------------	-----------	--------------------------------	-------------	---------------------------------	--------

同じ作者による同じ題材の詩を読み比べることで、作者の経験や考えの違いなどの背景に惑わされることなく、語句や表現についてどのように吟味しながら詩を作ったのかということに焦点を絞って考えさせることができた。

2 授業の実際

視点Ⅰ

言葉に対する興味・関心をかき立てる課題設定の工夫

単元計画

時	学習活動	段階
1	詩を読み、どのような情景がイメージできるか考える。	習 得
2	詩の構成をもとに、「初恋」は成就したかを考える。	
3	作者が詩を書き改めたのはなぜかを考える。	
4 本時	改変前と改変後の詩を読み比べ、どちらの詩のどのようなところに魅力やよさを感じるかを考える。	活 用

本単元では、教科書教材「初恋」の読解をする「習得」段階と、藤村自身が改変した「初恋」と読み比

視点Ⅱ

自他の考えを比較させるための共有場面の設定

共有の場面では、共有アプリを活用し、互いの考えを比較しながら話し合いを行った。

改変前と改変後の違いに着目すると、印象がどのように変わるだろうか？

<p style="text-align: center;">改変前</p> <p>君との距離がまじく近づいたように感じられる。</p> <p>「君」が恋しくてたまわらない 季和</p>	<p style="text-align: center;">改変後</p> <p>君との距離がまじく近づいたように感じられる。君</p> <p>君との距離が、気にならなくなったように感じる。 佐藤</p> <p>自分の嬉しさを表現している 季和</p> <p>因われていることが嬉しい。 俊彦</p>
---	---

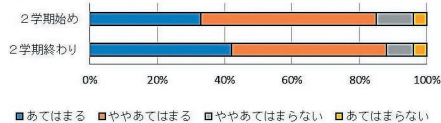
あるグループは、変更前の第三連に着目し、「恋の盃」から恋に酔っている様子や二人がお酒を酌み交わす情景をイメージし、少年と少女の恋から成熟した大人の恋を表現しようとしていると読み取った。また、交流の中で、第三連には「林檎」が出てこないことにも気付いた。「林檎」は甘酸っぱい初々しい「初恋」をイメージさせる言葉であり、「林檎」が入っていない第三連を削除した方が詩に統一感が生まれると話合っていた。



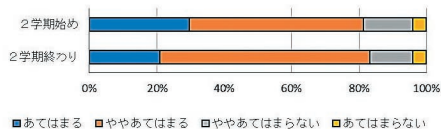
他のグループの考えを比べて、「同じ考えだ」「何でこう考えたんだろう」と、さらに話し合いを進めている。

### 3 子どもの変容

課題を解決するための方法・手段について「こうしてやってみよう」という見通しをもって取り組んでいますか。



授業の最後に、「今日は〇〇について学習した・詳しくなった」「〇〇がうまくできるようになった」「〇〇がよくわからなかった」など、学習を振り返ることができていますか。



〈考察〉

「習得」「活用」の二段階の学習を設定したことで、どのように課題を解決していくかという見通しや、自分の考えをもって授業に臨む生徒が増加した。

振り返りについては、「あてはまる」と答えた生徒が少なくなったのは、生徒が自己の授業における振り返りを客観的に捉えたことで、評価が厳しくなったと考えられる。

### 4 研究のまとめ (○成果●課題)

【視点Ⅰ】

- 読み比べる学習活動によって、その違いに興味・関心を高めるとともに、自分のものの見方や考え方を広げさせることができた。
- 読み比べる上で、違いに注目させ、深い読みにつなげられるよう、発問を工夫する必要がある。

【視点Ⅱ】

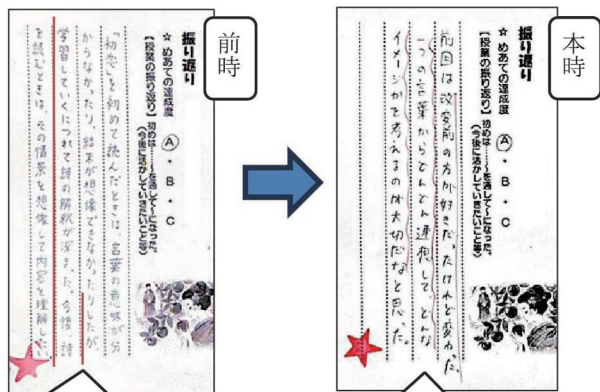
- グループで考えを共有させたことで、各自の考えを比較し、語句や表現を追究して考えを深める姿が見られた。
- 全体で共有する場面において、ポイントとなる発言を拾い、さらに考えを広げられるような教師のコーディネートが必要である。

【視点Ⅲ】

- 振り返りの視点を示したことで、自分の学びがどのように変容したかを振り返ることができた。
- ノートやプリント、タブレット内のワークシート等、授業での学びの形跡が散り散りになってしまう。学びと振り返りを結び付ける「振り返りシート」の工夫が必要である。

#### 視点Ⅲ

自らの学習状況を把握させ、次の学びにつなげる振り返りの工夫



「初恋」を初めて読んだときは、言葉の意味がわからなかったり、結末が想像できなかったりしたが、学習していくにつれて詩の解釈が深まった。今後詩を読むときは、その情景を想像して内容を理解したい。

前回は変更前の方が好きだったけれど変わった。一つの言葉からどんどん連想して、どんなイメージかを考えるのが大切だなと思った。

自分の考えの変容について、なぜ変わったのか、変わらなかった理由は何かという根拠を明記しながら振り返りをした。学習を通して、言葉や表現から作者が意図したことを読み取ることによって解釈が深まるということを学ぶことができた生徒が多かった。

実際の指導案はこちらへ▶

